

高温に対する農作物等の技術対策

平成27年7月21日
埼玉県農林部

7月16日発表の1か月予報によると、関東甲信地方の7月18日からの向こう1か月の気温は高いと予想されています。特に、7月21日からの1週間はかなりの高温(平年差+2.2℃以上)になることが見込まれ、高温に関する異常天候早期警戒情報も発表されています。

高温による農作物等への被害を軽減するため、下記の技術対策を行ってください。

共通事項

- 1 施設・畜舎等は遮光資材、換気扇等により、温度上昇の抑制や通風改善を図りましょう。
- 2 高温条件下で発生しやすい病虫害の早期発見につとめ、的確な防除を行いましょう。

水 稲

高温による不稔粒、白未熟粒(乳白粒、背白粒、基部未熟粒等)や胴割れ粒の発生を軽減するには、稲体を健全に保つことが最も重要です。

1 生育段階に応じた水管理

- (1) 田面に小ヒビが入ったら、中干しは終了してください。過度な中干しは水持ちを悪くするだけでなく、根を傷めるため高温被害を受けやすくなります。
- (2) 中干し後は間断灌水とし、穂ばらみ期～穂揃い期(出穂前7日～出穂後7日)の間は可能な限り深水にしましょう。限られた用水ですので、無駄な掛け流しなどはせず、有効に使いましょう。
- (3) その後は、1週間を1サイクルとし、湛水と断水を3～4日で繰り返す間断かん水を出穂後30日目まで行いましょう。

2 適正な穂肥の施用

- (1) 穂肥は、稲の栄養状態を健全に保つために葉色診断に基づいて適正に実施しましょう。穂肥の省略は、稲の栄養状態を悪くし、白未熟粒等の発生を助長します。
- (2) 出穂前10日になっても葉色が薄い場合は、基肥一発施肥の場合でも10aあたり窒素成分で1kg程度の穂肥を施用しましょう。

野 菜

- 1 無理な土寄せ等は根を傷めるので避けましょう。
- 2 育苗中のブロッコリー、キャベツ等は、適宜遮光を行い、発芽をそろえるとともに、発芽後の蒸散を抑えます。灌水は、徒長しないように早朝を主とし、乾燥が激しいときは夕方に葉水等の補助灌水を行う程度とします。

果 樹

- 1 果実の収穫は、早朝涼しいうちに行い、収穫した果実は涼しいところに置き、果実温度が高くないように気をつけましょう。

日中等高温時の農作業は避け、作業中はこまかな水分補給と休憩に心がけましょう。

詳しくは、農林振興センター農業支援部に御相談ください。